



地域とともに取り組んだ小児口腔研究が実を結びました

大阪大学大学院歯学研究科は、大阪府豊中市健康医療部および（一社）豊中市歯科医師会と連携し、共同研究「小児の成長発育と口腔機能の発達に関する調査」を実施しました。本研究は2021年6月に開始され、本学が参画していた国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）未来社会創造事業の一連の研究プロジェクトの一つとして進められたものです。幼少期の咀嚼機能や口腔機能が子どもの心身の健やかな成長に果たす役割を科学的に明らかにし、将来の歯科医療や保健施策につなげることを目的として取り組んできました。

研究期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響により、健診や調査の実施、関係機関との連携が制限されるなど、研究の進行が思うように進まない時期もありました。それでも、大学、自治体、歯科医師会が連携を維持し、役割を分担しながら粘り強く研究を継続しました。その結果、約4年間にわたる調査と解析を経て、研究を完遂し、計3本の論文として成果を公表することができました。

本研究では、豊中市が過去に実施してきた乳幼児健診の大規模データを基に、乳歯の萌出時期、授乳および食習慣、歯科口腔保健支援の有無と、むし歯の発症や発育発達との関連について詳細な解析を行いました。その結果、乳歯が早期に萌出する子どもではむし歯のリスクが高いこと、また、母乳育児を継続している場合でも、乳歯の萌え始める時期に自治体による歯科口腔保健支援を受けることで、後のむし歯のリスクが低減することなどが明らかになりました。乳幼児期からの継続的な歯科支援と、かかりつけ歯科医をもつことの重要性を示す、実践的な知見が得られています。

これらの研究成果は、国際学術誌「BMC Oral Health」「Scientific Reports」「Nutrients」に掲載され、国際的にも発信されました。日常の健診データを科学的に解析し、エビデンスとして社会に還元できた点は、本研究の大きな



左から加藤隆史教授、豊中歯科医師会・北谷真会長、仲野和彦研究科長

意義といえます。

大学の研究力と、地域に根ざした行政・歯科医師会の実践が結びついた本共同研究は、未来社会創造事業が目指してきた研究成果の社会実装を体現する取り組みでした。大阪大学大学院歯学研究科は、こうした経験と成果を今後の研究や地域連携へと活かし、地域社会とともに、子どもたちの健やかな成長と地域医療の発展に引き続き貢献してまいります。

（口腔生理学講座 加藤隆史）

CONTENTS

地域とともに取り組んだ小児口腔研究が実を結びました	1
教員表彰	2
産学連携	2
学生活動	2
国際交流	3
情報発信	3
新教授就任のご挨拶	3
ご寄付のお願い	3
大阪大学歯学会ニュースレター	4

国際交流

釜山大学校歯学部との部局間学術交流協定

2026年2月3日（火）、韓国・釜山大学校において、本研究科と釜山大学校歯学部の部局間学術交流協定に関する調印式が行われました。両部局は2020年に協定を結んで以来、交流を継続してきましたが、当時予定していた記念訪問は新型コロナウイルス感染症の拡大により見送られていました。今回、2026年2月に協定期間の更新を行ったことを契機に、当時研究科長を務めた今里教授も同行し、念願の訪問が実現しました。滞在中は Seong-Sik KIM 学部長、Hyeon-Cheol KIM 歯科病院長をはじめとする教員の皆様と懇談し、研究面での協力体制の深化や学生交流の推進について活発に意見交換をいたしました。今後の連携のさらなる発展に向けての貴重な機会となりました。（生化学講座 波多賢二）



情報発信

海外向け英語 PR 動画を公開しました

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部ならびに歯学部附属病院の特色を海外の皆様にご覧いただくため、英語版の紹介動画を新たに制作しました。動画では、先進的な研究・臨床を支える技術力、次世代を育てる教育体制、国際的な評価やこれまでの実績を分かりやすくまとめています。さらに、大学院・学部・附属病院が連携して生み出す強みも紹介し、世界の研究者・学生、ならびに支援機関へ向けて本学の魅力を発信しています。



詳細はQRコード
をご覧ください。
(Youtubeに
リンクします)

（生化学講座 波多賢二）

新教授就任のご挨拶

歯科麻酔学講座 教授 工藤 千穂

2026年1月16日付で歯科麻酔学講座の教授を拝命いたしました工藤千穂と申します。鹿児島大学を卒業後、大阪大学歯学部歯科麻酔学講座に入局し、歯科麻酔科医として研鑽を積んで参りました。国立大学唯一の歯科単独の病院である大阪大学歯学部附属病院において歯科麻酔科の医療安全への責務の大きさを日々実感しており、そのような講座を主宰する立場となり、大変身の引き締まる思いがございます。まだまだ若輩者ではございますが、これまでの経験を活かし、研究、臨床、教育において歯学研究科、歯学部附属病院の発展に貢献できますよう尽力する所存でございます。今後とも温かいご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。（歯科麻酔学講座 工藤千穂）



工藤 千穂教授

ご寄付のお願い

未来の歯科医療を支える教育基盤完成プロジェクト

本研究科・学部は、創設以来、歯科医学において世界屈指の研究業績を創出し、国内外から広く信頼を寄せられる研究拠点として歯科医療の学術的発展に寄与してまいりました。しかし現在、教育現場では学生用実習台の老朽化が深刻な課題となっており、次世代を担う学生たちの研鑽に支障をきたしている現状があります。最新の設備で高度な技術を習得できる環境を整えることは、本学の使命を果たす上で急務です。

本学では「歯学部・歯学研究科教育研究事業」基金を通じ、教育体制の充実を図っております。後進たちが最高の環境で学び、未来の歯科医療を切り拓く力となれるよう、実習設備の更新に向けた温かいご寄付を心よりお願い申し上げます。（再生歯科補綴学講座 高岡亮太）



ご寄付に関する
情報はこちら

令和7年度 大阪大学歯学部弓倉学術賞

大阪大学歯学部弓倉学術賞は、歯科医学領域において優れた業績を挙げた本学歯学研究科・歯学部附属病院の教員に対して、大阪大学弓倉奨学会から授与される賞です。

大阪大学歯学会では、これらを受賞された方に例会での講演を依頼するとともに、大阪大学歯学雑誌への総説論文の執筆をお願いしています。令和7年度の弓倉学術賞は、片桐綾乃先生（口腔生理学講座）と、岡本基岐先生（歯科保存学講座）に授与されました。

口腔生理学講座 片桐 綾乃

研究論文名: Effect of chronic intermittent hypoxia on ocular and intraoral mechanical allodynia mediated via the calcitonin gene-related peptide in a rat. Sleep. 2024 Mar 11;47(3):zsad332.

名誉ある大阪大学歯学部弓倉学術賞に本研究を選出いただき、大変光栄に存じます。また、大阪大学歯学会関係者の皆さまに御礼申し上げます。

本研究では、治療に難渋する特発性/非定型口腔顔面痛や歯科心身症関連疼痛に対し、閉塞性睡眠時無呼吸が関与する機序を神経生理学的観点から解明いたしました。睡眠時の間欠的低酸素が三叉神経節における calcitonin gene-related peptide の発現を亢進させ、末梢ならびに中枢感作を惹起することで、器質的変化を伴わない口腔顔面痛の発症に寄与する可能性を示したものです。今後も、基礎研究と歯科臨床を架橋する研究をさらに発展させてまいります。

最後に、日頃より懇切なるご指導を賜っております加藤隆史教授、そして共に研究を進めている口腔生理学講座大学院生の皆様に、深く感謝申し上げます。

歯科保存学講座 岡本 基岐

研究論文名: Ultrastructural evaluation of adverse effects on dentine formation from systemic fluoride application in an experimental mouse Int Endod J, 58, 128-140.

この度は、令和7年度大阪大学歯学部弓倉学術賞という栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。受賞対象となった研究は、歯のフッ素症における象牙質形成不全について微細構造学的に解析したものです。歯のフッ素症は世界では1億8,000万人が影響を受けていると推定される一方、その病態は主にエナメル質への影響が注目され、象牙質形成への影響は十分に解明されていませんでした。今後も国際共同研究として米国の研究チームと連携し、フッ素による硬組織形成障害のメカニズムを追求していく予定です。

大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」のもと、今後も世界中の研究者と連携し、日本のみならず国際的課題にも貢献できる研究を遂行していきたいと考えております。本研究を遂行するにあたり、多大なるご指導とご支援を賜りました米国 Nova Southeastern University 鈴木麻衣子先生、大阪大学理事・副学長 林美加子先生に厚く御礼申し上げます。



片桐先生・弓倉学術賞



岡本先生・弓倉学術賞